

2021年度事業報告

(一社) 若草プロジェクト

構成

1. 事業の概要	2
2. 事業の実施状況	3
① 「つなぐ事業」	
ア. LINE 相談	
イ. 若草ハウス	
ウ. まちなか保健室	
エ. 企業との連携	
オ. プラットホーム事業	
カ. 若草メディカルサポート基金	
② 「ひろめる」事業	9
ア. シンポジウム	
イ. 広報事業	
ウ. SNS の活用	
③ 「まなぶ」事業	11
ア. 研修事業	
イ. Youtube 事業	
3. 総会・理事会の開催状況	12
4. 会員、賛助会員の状況	13

1 事業の概要

2021年度の事業として特筆すべきは、「まちなか保健室」の移転と拡張である。

2020年4月、コロナの緊急事態に合わせたように開室した「まちなか保健室」（正式開室は緊急事態宣言が明けた7月だったが、既に開室準備が整っていたので、小さく開けて居場所・行き場所のない女性を細々と受け入れた）だったが、やはり手狭だったので、1年で近くの一軒家に移転し、2021年4月、新装開室した。さらに、これに合わせるように、東京都の若年女性支援の委託事業を受けることができ、まちなか保健室を拠点に、女性たちの日中の居場所支援と秋葉原やお茶の水を中心にアウトリーチをすることが実現できた。その内容と実数は本報告書本文を参照していただきたいが、「少女の街」秋葉原と「学生の街」お茶の水の中間に位置する場に設営できた「まちなか保健室」は、地の利を得て、連日複数の女性たちが利用し、それぞれの需要に応えることができた。スタッフはシフト制ではあるが、福祉や看護、教育の有資格者もしくは有識者であり、女性の個性も困難も多様であり、一人として同じではない複雑多様なニーズにこたえることができている。学校にあったような保健室が街中にあつたらいいな、との思いから始めた「まちなか保健室」、時機とニーズに適った取り組みとして多方面から関心を持たれ、メディアでの紹介や、視察も多く受け入れた。若者が気兼ねなく立ち寄り、ホッとできて、有用な情報をゲットできて、少しでも元気が出る場所、そんな場所が日本中のどこにでもあるようになればいいなと、思う。

開所して丸3年を経過したシェルターとしての若草ハウスは、常時満室で、しばし入所依頼をお断りすることが続いた。また若草ハウスを通過した退所者も累積し、時に入所中には見えなかった困難が退所後に判明するなど、若年者支援の難しさをつきつけられた。この経験を踏まえ、今年度、自前のステップハウスを設けた。ステップハウスでは、若草ハウススタッフの支援を受けて一人暮らしに慣れていけるよう、見回りの支援を実現した。シェルターからステップハウスに移り、常時生活を共にする見守り支援から、時々覗く見回り支援を継続し、基礎的な生活習慣や生活のリズムを学び、出来たら多少の蓄えをしてから自立していくという道である。なかなか絵に書いたようにはいなくても道筋を作ることによって目標を明確にすることができるようになった。

私たちが支援しながら学ぶ。ライン相談やハウス、まちなか保健室の女性たちの直接の声に耳を傾けながら、何が必要かを探り続けている。この意味で、今年度のシンポジウムに「少女たちが世界をかえる」をテーマとし、広く若者の声を聞きながら、上野千鶴子氏の講演と対話を持つことができたことはとても有意義だった。

コロナ禍で女性たちの困難はますます過酷を極め、統計上にもその実態が明らかになってきている。3年目に入る今、まだまだ収束は見え、更なる困難が続くことが予想される。若草としても、私たちの強みである専門性と企業連携をさらに強化して、複雑かつ多様な女性たちのそれぞれの困難に対処し得るよう、私たち自身の心身の健康に留意しながら、今年

度事業の成果を次年度事業につなげていきたいと思う。

なお、本年度、当法人代表呼びかけ人である瀬戸内寂聴先生が逝去された。氏に励まされてここまで来たことに心から感謝している。そして、これからも「貴方たちなら未来は変えられる」との遺言メッセージを心に留め続けていきたいと思う。これは当法人のみならず多くの女性への励ましであり、エールである。引き続き代表呼びかけ人として、さらに一歩進めるための旗手であり続けていただきたく思う。

2 事業の実施状況

①「つなぐ事業」

ア.LINE 相談

i 相談の仕組み

今年度は、コロナウイルスの感染が拡大してから2年目になり、蔓延防止等重点措置が出されたが、毎週水曜日は20時～22時まで弁護士や福祉専門職・心理専門職等の監修者2名で対応し、毎週土曜日は18時～21時まで監修者2名と学生を中心とした相談員3名で対応した。

なお、監修者は電話対応やメール相談への対応も行っている。

ii 相談実績

①対応件数	1,148 件
②メール相談件数	111 件
③電話相談件数	13 件
④出張面談件数	5 件
⑤同行支援件数	1 件
⑥保護件数	1 件
⑦関連機関連携	13 件

LINE で相談を受けた結果、直接面談が必要と判断した場合、都内近郊の場合には面談を行う。法律的観点からだけでなく、福祉的観点からも支援ができるように、原則、弁護士と福祉専門職の2名で面談することになっている。なお、遠方の場合には、地元の支援者などを紹介している。この場合、監修者が地元の支援者に連絡をして、相談者の心理的負担をできるだけ軽減するようにしている。直接面談した結果、必要と判断した場合には、同行支援を行っている。これまでに、児童相談所、医療機関等へ同行している。なお、LINE 相談は遠方からの相談も多く、その場合には、同行支援ではなく、本人の同意を得て、児童相談

所などに通告したり、学校と連携するなどもしている。

iii その他

今年度から、LINE 相談が来るのを待っているだけではなく、SNS で困っている状況にある女性に積極的に声掛けをするオンラインアウトリーチも行った。その結果、Twitter で LINE 相談を知ったと言って、相談に来る人が増えた。相談先を知らずにいる女性に相談先の 1 つとして若草プロジェクトを知ってもらうきっかけになったのではないかと思う。

イ.若草ハウスの運営

「東京都配偶者暴力等セーフティネット強化支援交付金」(2 年目)を受けて以下の事業効果を挙げられた。

①弁護士、社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士、関係機関をつなぐコーディネーターによる支援の実施：多様な支援者がかわることで、支援が重層的になる、また、対象者も自分の支援者がチームであることで精神的に安定を得た。

利用者への支援

②社会性を獲得するための入所者の面談同行支援、SNS 相談：コロナ禍もあり、当初の想定のようなことができなかつたが、必要に応じて同行し課題解決ができることで支援の信頼度が増した。

③退所者支援 居宅移行支援、居宅生活継続支援、SNS 相談：ハウスを退所したことで、初めて生活課題が明確になることが多い。退所後も一緒に生活課題や就労等の課題を解決し見守ることで、自立へ向けて支援できた。

④就学・学習支援を含む進路支援：予備校に通学していても、モチベーションが下がらないような声かけ、受験日程のアドバイスなどを行った。また、当日の試験会場まで道順の確認などきめ細かく実施した。功を奏して受験生 2 名とも大学に合格した。

⑤被虐待トラウマ回復支援カウンセリング：まちなか保健室を開設したことでハウスと別の場所に確保できた。これにより、退所者も継続してカウンセリングを受けやすくなった。

⑥心理教育や生活スキル習得のためのプログラム実施：自分をたいせつにするセルフケア、呼吸法などを行っている。生活スキルを習得するために季節ごとに、居室の整理整頓、敷物の交換をしながら清掃を行うなどしている。ステップハウス等退所後の生活に役立たせることができた。

支援システムの構築

⑦スーパーバイズの実施：A 発達障害とトラウマ反応 B 依存症：OD をどうみてどう関わられるか、講師とファシリテーター 2 名体制の研修により、基本知識習得と具体的な場面对応の意見交換ができ、スキルアップした。

⑧ハウス会議、ケース検討会議の充実：ハウスは複数のスタッフが関わっている。ハウス会議はスタッフと担当弁護士が参加し入所者情報の共有、役割分担をした。ケース会議が利用

者個人を中心に据えスタッフと担当弁護士のチームで現状把握、方針検討を行い効果的支援が行えた。

若草ハウスは、日本財団の支援を受けて立ち上げ3年間は運営し、2020・2021年度は「東京都配偶者暴力等セーフティネット強化支援交付金」により運営できた。交付金は3年間限度であるため、総合的に検討を重ねた結果、2022年度は、「東京都若年被害女性支援委託事業」として、若草ハウスに加えて、十条ステップハウス、赤羽シェアハウス、阿佐ヶ谷ハウスと4つの「居場所事業」を行う。更なる拡充事業として以下を考えている。

1. 若草ハウスでの日中支援
2. 公的機関と連携
3. リーガルサポートネットワークの立ち上げ

入所・支援実績

1 利用者総人数 8人（前年度継続3人、新規入所者5人）

うち 中長期入所者 8人（退所者4人 次年度継続利用者4人）

2 同行等支援

1) 入所者面談同行支援

- ・実施回数：70回 利用者人数：26人（実人数8人）
- ・内訳：面談42回、福祉同行6回、医療同行4回、教育関係同行3回、自治体手続き同行1回、警察同行3回、民間機関同行12回

2) 退所者面談同行支援

- ・実施回数：263回 利用者人数：66人（実人数13人）
- ・内訳：面談216回、福祉同行8回、医療同行23回、教育関係同行1回、自治体手続き同行5回、警察同行1回、民間機関同行8回、関係機関全体調整1回

3) 進路支援

- ・実施回数：9回 利用者人数：8人（実人数6人）
- ・内訳：面談8回、教育機関同行1回

4) カウンセリング

- ・実施回数：15回 総時間：61回 1220分 利用者人数：12人（実人数4人）

5) スーパーバイズ 実施回数：2回

6) ハウス会議 実施回数：13回 参加スタッフ数：102人

7) ケース会議

- ・実施回数：31回 参加スタッフ数：43人 利用者人数：28人（実人数10人）

8) メール SNS 対応

- ・実施回数：431回 総時間数：234.5時間 利用者人数：63人（実人数13人）

9) プログラム

- ・実施回数：3回 実施スタッフ数：6人 利用者人数：9人（実人数5人）
- ・実施内容：施設環境整備プログラム、音楽鑑賞プログラム、成人式プログラム

ウ.まちなか保健室

東京都の若年被害女性支援事業の対象となり念願の1軒屋に移転し多様な事業を展開することができた。

居場所としてはもちろんのこと、エンパワメントできる場所として多様な事業を展開している。当初より行っているアロマセラピー、心理相談、女性医師によるからだの相談に加え、消費者講座や税理士による相談も開始した。また英語教室、英会話、音楽、フラワーアレンジメント、ヨガなどのワークショップ、企業との協働でのワークショップも行うことができた。

アウトリーチでも、メイド姿の女性から逆に声を掛けられるなど、まちなか保健室の周知度があがっていると感じる場面もあった。区内の中高や大学、予備校、図書館などヘリーフレットの配布や千代田区の民生委員児童委員の会で講演を実施するなど千代田区内でも多くの人に知られるようになってきている。

今年度は区内の更生保護団体や女性団体とも協働して事業を行っていくことも目標としている。

活動実績

2021年度

一般社団法人若草プロジェクト

2. まちなか保健室

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
相談件数	956	45	103	91	103	55	68	66	88	100	77	70	90	
相談内容別件数	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	全体相談割合
①心理相談	108	5	14	9	8	9	10	8	11	7	9	9	9	11.30%
②易相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
③アロマ	143	8	15	12	16	11	14	9	15	13	6	11	13	14.96%
④婦人科相談	18	2	4	1	0	2	0	1	3	1	0	2	2	1.88%
⑤助産師相談	15	0	0	0	1	0	1	6	2	2	3	0	0	1.57%
⑥法律相談	6	0	1	0	1	1	1	0	0	1	0	1	0	0.63%
⑦生活相談	5	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	2	0.52%
⑧キャリアカウンセリング	15	0	2	1	1	1	0	2	1	2	1	2	2	1.57%
⑨アサーショントレーニング	9	0	0	4	1	0	0	0	1	1	0	1	1	0.94%
⑩フラワーアレンジメント	12	0	0	3	1	0	1	1	1	1	1	1	2	1.26%
⑪洋裁教室	17	0	4	3	1	0	0	3	1	1	2	1	1	1.78%
⑫ものづくり教室	18	0	2	2	1	0	3	2	2	1	1	2	2	1.88%
⑬英語	29	0	7	5	2	1	0	1	2	3	3	2	3	3.03%
⑭ヨガ	11	0	1	1	2	1	0	1	1	1	2	1	0	1.15%
⑮パソコン教室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
⑯音楽教室	18	0	0	0	1	0	2	1	4	2	4	2	2	1.88%
⑰税の講習会	2	x	x	x	x	x	x	2	x	x	x	0	x	0.21%
⑱タキヒョーイベント	12	x	x	x	x	x	7	x	x	5	x	x	x	1.26%
⑲消費者教育	2	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1	x	1	0.21%
⑳ゆっくりしにきた	516	30	53	50	67	29	28	28	44	58	44	35	50	53.97%
㉑その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
合計(データ確認用)	956	45	103	91	103	55	68	66	88	100	77	70	90	100.00%

お断り内容別件数	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
㉒キャンセル	244	2	19	30	25	13	18	16	24	24	34	26	13	89.05%
㉓お断り件数	30	5	5	3	5	3	2	1	1	2	1	1	1	10.95%
合計(データ確認用)	274	7	24	33	30	16	20	17	25	26	35	27	14	100.00%

30以上

年代別件数	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	全体相談割合
10代前半	5	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0.5%
10代後半	133	18	23	10	4	6	9	6	14	10	13	12	8	13.9%
20代前半	732	24	76	74	77	40	48	55	66	84	59	53	76	76.6%
20代後半	76	3	4	6	21	9	11	4	5	5	2	2	4	7.9%
不明・30代	10	0	0	0	0	0	0	1	2	1	2	3	1	1.0%
合計(データ確認用)	956	45	103	91	103	55	68	66	88	100	77	70	90	100.0%

年代別件数	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	全体割合
LINE	71	12	16	11	6	5	5	4	3	1	3	2	3	7.4%
Twitter	466	22	51	40	68	35	33	35	35	35	35	35	42	48.7%
インターネット	6	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0.6%
テレビ	30	1	6	3	2	2	7	2	2	3	2	0	0	3.1%
ハウス	11	0	0	0	0	0	1	0	0	4	4	1	1	1.2%
ホームページ	30	1	3	2	3	1	1	1	7	3	1	3	4	3.1%
寄り添いホットライン	25	0	0	0	0	0	0	0	0	9	3	2	11	2.6%
大谷先生	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0.3%
通りすがり	9	1	0	0	0	1	2	0	1	3	0	0	1	0.9%
友人の紹介	239	8	23	34	21	11	16	18	25	22	17	18	26	25.0%
アウトリーチ	12	0	4	1	2	0	0	0	1	0	1	1	2	1.3%
学校	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1%
弁護士	43	0	0	0	0	0	1	6	6	16	7	7	0	4.5%
婦人相談員	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0.1%
MIW	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0.1%
新聞	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0.2%
図書館	3	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0.3%
相談機関	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0.3%
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
合計	956	45	103	91	103	55	68	66	88	100	77	70	90	100.0%

複数回答あり

エ.企業との連携

連携協定を締結しているファーストリテイリング及び日本生命とのコラボレーションを以下のように進めた。

・ファーストリテイリングとは、引き続きシェルター、自立援助ホーム等の支援施設へのユニクロ製品の提供、グループ3ブランド（セオリー・ユニクロ・ジーユー）とのファッションイベントの開催を行うとともに、ジーユー顧客が商品購入などで獲得するマイレージポイントを対象団体に寄付する「服のチカラを少女や女性の未来のチカラにする」取組を進めると共に少女や女性たちの社会課題を2021年国際女性デートークイベント@銀座ユニクロ「Support:コロナ禍で女性にどんな影響が?そして何ができるか」に代表呼びかけ人である村木厚子などが参加し広く社会に発信する取組なども行われた。

・日本生命は支援団体・施設と企業をつなぎ「社会のなかに大きな応援団をつくる」という取組に賛同、以下について協働事業を実施した。

i) プラットフォーム「TsunA が〜る」のシステム運営等に係る費用の資金協力並びに、日本生命で実施されている「顧客ポイントを対象団体に寄付する」という取組の対象団体としてプラットフォーム「TsunA が〜る」事業への寄付

ii) 法人営業部で取引のある顧客企業をプラットフォーム事業の進捗に合わせた形で計画的に連携企業先として紹介し、プラットフォーム「TsunA が〜る」拡充に協力。2021年度は7企業とのMTを実施（6企業とは連携、もしくは連携できる支援等を協議検討中）

iii) まちなか保健室で実施されるアウトリーチでチラシと共に渡す企業ロゴなどが入ったグッズの提供による「大きな応援団」の存在を知らせる広報活動への協力。

多くの企業が若い女性たちの支援に関心を示していることから、先行2社を踏まえ、ハウス食品グループによる「防災の日」に合わせた災害時の防災食の配布も継続実施となった。また、服飾商社であるタキヒヨー(株)によるまちなか保健室での企業参加型イベントの開催等、支援施設だけではなく、その先にいる若年女性を含めたかたちでの「支援の現場と企業」をつなぐ取組を実施し、企業で働く人たちと直接触れ合う機会が極めて少ない若年女性たちにイベントを通して実社会で働く女性たちと交流の場を設け、会話等を通じて自立、就労への不安解消やサポートなど社会にいる応援団の存在を広めた。更に大手女性向けECサイト、総合商社、女性誌等からの若草プロジェクトへの連携事業への働きかけなど2022年に向けた協働企画への協議を開始した。

オ.プラットフォーム事業

21年4月〜22年3月 支援を求める若年女性と支援提供者がお互いアクセスできるプラットフォームを作成。左記システムを用いて支援企画を実施した。

登録企業・団体

支援団体：165施設登録完了

連携企業：8社連携企画実施

1. 2021年6月30日～2021年7月9日 48施設案内
防災の日・非常時対策レトルトカレー企画
2. 2021年8月27日～2021年9月10日 162施設案内
国際ガールズデーイベント 服のチカラプロジェクト
3. 2021年9月8日～2021年10月8日 147施設案内
非常時対策レトルトカレー企画
4. 2021年10月30日～2021年10月30日 149施設案内
「若草プロジェクト」シンポジウム
5. 2021年11月19日～2021年12月5日 149施設案内
スキンケア用品企画
6. 2022年1月13日～2022年1月31日 166施設案内
国際女性デー特別企画 服のチカラプロジェクト
7. 2022年1月17日～2022年1月24日 51施設案内
コスメ詰合せギフト企画
8. 2022年3月7日～2022年3月20日 165施設案内
ケア用品企画

カ.若草メディカルサポート基金

2020年度の試験的実施の結果を鑑み、実施内容の検討を行った。

②「ひろめる」事業

ア.シンポジウム

2021年度の若草プロジェクトシンポジウムは、新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点から入場数を限定した会場参加と、オンライン参加のハイブリッドで開催。以下のように実施した。

若草シンポジウム 2021 ～国際ガールズデーに寄せて～

girls have the potential to change the world

“少女たちは世界を変える”

開催日時 2021年10月30日（土）13:00～16:00(実際の終了は17:00過ぎ)

会 場 大妻女子大学本館 E 棟地下 1 階 055 教室
(〒102-0075 東京都千代田区三番町 12 番地)

プログラム

瀬戸内寂聴 若草プロジェクト代表呼びかけ人 メッセージ動画上映
挨拶 村木厚子 (代表呼びかけ人)
共催者挨拶 伊藤正直 大妻女子大学学長

第 1 部 「応援団の応援団」としての挑戦

- ・村木厚子 (若草プロジェクト代表呼びかけ人)
- ・福田和代 (NHK編成局展開戦略推進部部長)
- ◆企業連携 新たな広がり プラットフォーム「TsunA が〜る」
- ・福田万祐子 (若草プロジェクト理事)
- ・シェルバ・英子 (株式会社ファーストリテイリング コーポレート広報部ソーシャルコミュニケーションチームリーダー)
- ・岡山慶子 (株式会社朝日エル 会長)

第 2 部 あなたが背負ったものはなにか。背負わなくてよいものはなにか。

- ・上野千鶴子 (社会学者、若草プロジェクト呼びかけ人)
- ◆上野さんに聞いてみよう！ ～若者たちとのトークタイム

第 3 部 みんなが動き始めた ～少女たちは世界を変える

- ◆若草プロジェクトメンバーと動き始めた人たちとのトーク
(進行 (NHK編成局展開戦略推進部部長 福田和代))
- ・筒井陽子 (タキヒヨー株式会社)
- ・須藤順一 (日本マクドナルド株式会社)
- ・LINE 相談員

閉会挨拶 大谷恭子 (若草プロジェクト代表理事)

当日の参加者は、会場参加 167 名、オンライン参加 341 名、計 508 名であった。その後 YouTube チャンネルで動画の公開を行い、現在は報告書をホームページに掲載している。参加者アンケートでは、多くの方々から熱い賛同の意見が寄せられた。

イ.広報活動

事業規模拡大に伴い、若草プロジェクトのHPの改修を実施し、まちなか保健室やプラットフォーム「TsunA が〜る」のHPをつなぐ事により各事業の詳細な情報発信に努め、若草プロジェクトの各事業の取組を明確にした。

2021年度は赤い羽根福祉基金、日本生命の支援によりカラー版報告書「March」を刊行。2021年度から東京都委託事業となり、旧来の場所より広いスペースに移転した新生「まちなか保健室」「LINE相談」並びに2020年度にスタートした『社会のなかに大きな応援団をつくる〜プラットフォーム「TsunA が〜る」』の取組などを紹介した。また、村木厚子氏の対談や有名人のインタビュー記事を載せることで、若草プロジェクト全体の活動を賛助会員や寄付者はもとより、学生から企業、教育機関、行政など幅広く社会に向けて広報活動を行った。

また、大谷代表、村木厚子代表呼びかけ人がマスコミに数多く出演し、コロナ禍の下での若い女性たちの窮状と若草プロジェクトの活動について訴えた。

ウ.SNSの活用

SNSを利用した広報については、若草プロジェクト全体としてのFacebook(支援者向け)Twitter、まちなか保健室・LINE相談のTwitterとInstagram(当事者向けアカウント及び支援者向けアカウントの2件)の3種類のSNSにおいて広報用アカウントを作成し、情報発信に活用している。

SNSを活用したイベントとして、2022年国際女性デーに合わせて、当事者世代に近いLINE相談員たちから「女の子へのメッセージ」を募集し、3月8日から約1週間にわたり1日2件ずつ合計9件のメッセージをSNS上で紹介したところ、Twitterでは合計4,381件のインプレッションを集めた。

2022年5月現在、若草プロジェクト全体用Twitterのフォロワー数は1,695件、LINE相談及びまちなか保健室用Instagramのフォロワー数は157件である。Twitterと異なり、画像コンテンツの投稿が前提となるInstagramは運用のハードルが高いのが実情である。

10代、20代の情報収集手段、コミュニケーションツールとしてSNSが果たす役割の重要性は当面変わらないと考えられるところ、これらの世代の意見を十分に反映しながら、引き続き当事者及び支援者に若草プロジェクトを知ってもらえるツールとしてSNSを活用していきたい。

③「まなぶ」事業

ア.研修事業

シンポジウムを研修に代えて開催

②「ひろめる」事業に掲載しているシンポジウム（10月30日）を、2021年度の研修とした。

イ. Youtube 事業（新規事業）

今年度は昨年度の動画公開を継続しつつ、チャンネル登録者数増加のための手立てを模索した。

コロナ禍で外部の方へのインタビュー等の動画作成は実施が困難なため、永続的に使えるような若草プロジェクトの活動宣伝動画の作成企画を夏より始動させた。

宣伝効果を推測しつつ、ターゲット層に向けたコンテンツとして、瀬戸内寂聴氏からのメッセージ動画を作ることとし、昨年度8月末から動画撮影依頼を同氏に出したが、同時期に体調を崩され、動画撮影が困難な状況が続き、11月9日、同氏が亡くなられたため同企画は実施不能となった。

来期は改めて村木氏による動画を公開するなどし、チャンネル登録を、賛助会員様含め多くの方への推進活動を行っていく。

3 総会・理事会の開催状況

i 機関

代表理事	大谷	恭子
理事	村木	太郎
理事	遠藤	智子
理事	瀬尾	まなほ
理事	牧田	史
理事	佐藤	加奈
理事	佐藤	静江
理事	福田	万祐子
監事	塩生	朋子

ii 総会

2021年度会員総会 令和3年6月16日

第1号議案 第6期事業報告及び決算の承認に関する件

第2号議案 任期満了に伴う理事の選任について

iii 理事会

第1回定例理事会 令和3年5月27日

第1号議案 第7期補正予算案について

第2号議案 第6期事業報告及び決算の社員総会提出に関する件

第3号議案 任期満了に伴う新理事候補者の推薦に関する件

第1回臨時理事会 令和3年6月16日

議案1 代表理事選任の件

第2回定例理事会 令和3年9月15日

報告事項

第3回定例理事会 令和3年12月15日

報告事項

第4回定例理事会 令和4年3月13日

第1号議案 第8期事業計画及び予算案の承認の件

4 会員、賛助会員の状況

正会員 5名

賛助会員 136名

合計 141名

以上